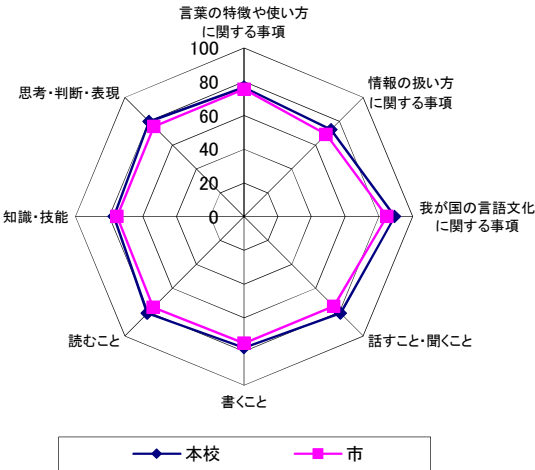


宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.7	75.6	66.5
	情報の扱い方に関する事項	73.0	69.0	62.0
	我が国の言語文化に関する事項	89.4	84.7	78.2
	話すこと・聞くこと	81.0	75.3	69.4
	書くこと	77.8	75.2	65.1
	読むこと	81.1	76.2	68.8
観点別	知識・技能	77.1	75.3	66.7
	思考・判断・表現	79.6	75.6	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

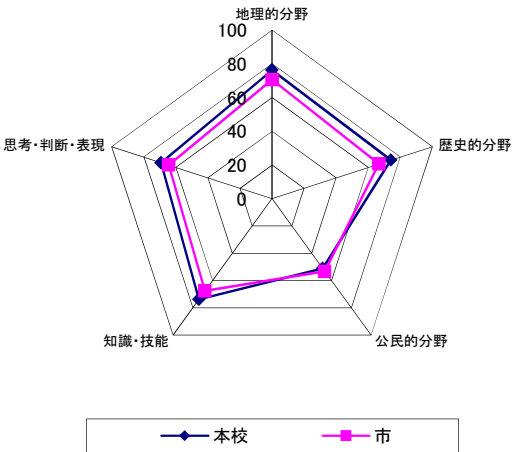
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○領域の平均正答率は市の平均正答率を1.1ポイント上回っている。9問中6問で、市の平均正答率を上回っている。 ●第3学年までに学習した漢字を正しく読む正答率は3問中2問が市の平均正答率を下回っており、そのうち1問は全国の正答率も下回っている。漢字を読むことにおいて、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・中学校で習った漢字について授業中で触れ、漢字ワークで復習する、といった流れを作るようにしたい。 ・漢字の読み書きに関しては、定期的に漢字テストを行い、基礎的な力を養うことが不可欠である。また、普段の生活においても、漢字を意識的に使うよう指導し、読みと書きのバランスの取れた力を育てていきたい。
情報の扱い方に関する事項	○領域の平均正答率は市の平均正答率を4.0ポイント上回っている。すべての問題で市の平均正答率を上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章にする問題においては市の平均正答率を上回っているものの、他の問題に比べ正答率は低く、やや苦手な様子が見られる。	・文章中の情報の要点をとらえ簡潔にまとめる力を身に付けさせるために、教科書で扱う文章や新聞記事の論説等を短い字数で要約する活動を実施する。 ・語句指定がある記述問題や条件のある作文などの活動に取り組ませ、情報を正しく取捨選択するようにさせる。
我が国の言語文化に関する事項	○領域の平均正答率は市の平均正答率を4.7ポイント上回っている。平均正答率が約90%と高水準にあることから、現代語訳を手掛かりに古文を読む力はついてきている。	・歴史的仮名遣いや古語の意味についての指導は、教科書で古典分野を扱う際に引き続き丁寧に行う。
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は81.0%と、市の平均正答率を5.7ポイント上回っている。また、すべての問題で市の平均正答率を上回っている。 ●自分の考えを明確にし論理の展開を考えて話す問題の正答率が、市の平均を上回っているものの同じ領域の他の問題に比べ低く、課題が見られる。	・聞き取りテストを行うだけでなく、普段の授業で板書しない発言などをメモさせたり、発言の要約や意図を問い、口頭ではなく記述させる活動を適宜行ったりする。 ・授業の中で、他教科とも関連させながらわかりやすい表現を意識したスピーチ的活動を実施する。
書くこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を2.6ポイント上回っている。すべての問題で市の平均正答率を上回っている。 ●2段落構成で文章を書く問題では市の平均をわずかに上回っているものの、同じ領域の他の問題に比べ平均正答率の市とのポイントの差がほとんどなく、課題が見られる。	・読み取った情報と情報との関係を整理・理解した上で記述する必要があるため、記述させる前に読み取った情報を整理できるような発問やワークシートの利用などの工夫を行う。 ・条件に合った文章の構成になるよう、作文用紙の使い方の基本を意識させる。
読むこと	○領域の平均正答率は市の平均正答率を4.9ポイント上回っている。すべての問題で、市の平均正答率を上回っている。 ●文章の論理の展開についての問題では市の平均を上回っているものの、同じ領域の他の問題に比べ正答率は低く、課題が見られる。	・論説文における構成の仕組みや展開の流れについて整理させる。 ・説明的文章については、新聞の記事を読ませることで、論理的に説明していく文章の形式に親しませる。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	76.2	70.5	62.1
	歴史的分野	74.1	66.6	57.8
	公民的分野	51.3	53.3	45.2
観点別	知識・技能	73.8	67.6	59.2
	思考・判断・表現	69.2	64.5	55.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

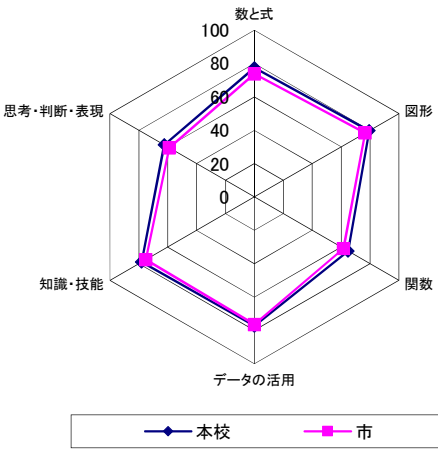
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を5.7ポイント上回っている。 ○世界のさまざまな気候を区別する問題では、市の平均正答率を12.0ポイント上回っている。 ●市の平均正答率を下回っている問題はなかった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・引き続き単元を貫く学習課題をもとに、自分の考えを論述する機会を作っていく。
歴史的分野	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を7.5ポイント上回っている。 ○明治期の偉人と功績を問う問題では、市の平均正答率を16.1ポイント上回っている。 ●開国後の日本社会への影響を問う問題では、市の平均正答率を2.8ポイント下回っている。	・単元を貫く学習課題を設定し、学習のまとめとして自分の考えを論述する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高めていく。 ・開国後の日本への影響については、輸出品・輸入品の項目や貿易相手国を資料を参考にしながら考えられるようにしていく。
公民的分野	○公共の福祉の意味について問う問題では、市の平均正答率を10.2ポイント上回っている。 ●領域の平均正答率は、市の平均正答率を2.0ポイント下回っている。 ●新しい人権が認められるようになった背景について説明する問題では、市の平均正答率を15.8ポイント下回っている。	・語句についての学習が単純な暗記作業にならないように、法律や制度の存在意義を丁寧に解説するとともに、問題演習の機会を増やし、確実な知識の定着を図っていく。 ・新しい人権に限らず、なぜそのようになったのか背景を文章で説明する機会を複数回設定していく。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	77.4	73.8	71.4
	図形	79.4	76.7	67.9
	関数	64.9	61.6	52.2
	データの活用	77.3	76.4	65.4
観点別	知識・技能	78.1	75.2	69.9
	思考・判断・表現	62.4	58.9	48.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

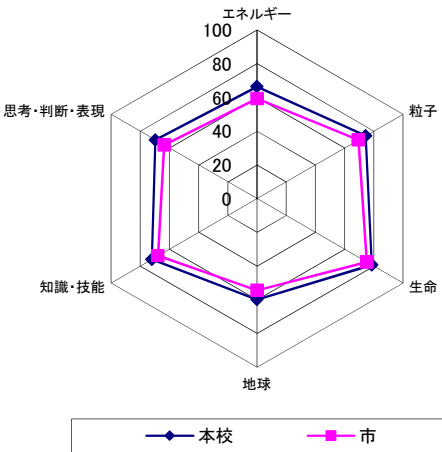
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を3.6ポイント上回っている。 ○乗法公式や連立方程式、式の計算の問題では、市の平均正答率を5ポイント以上上回っており、基本的な計算力が身に付いている。 ●平方根の大小関係についての問題では、市の平均正答率より2.9ポイントも低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算の技能は毎日の学習の中で繰り返し指導してこともあり、この領域の問題は正負の数の乗法と平方根の大小以外は市の平均正答率を上回っている。さらに改善・定着が図れるよう、今後も継続して指導していく。 ・2次方程式の正答率が52.3%と苦手意識がある生徒が多い。スモールステップで因数分解に慣れさせ、問題演習を繰り返し行い、十分な定着を図るよう努める。
図形	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を2.7ポイント上回っている。 ○角の二等分線の作図やおうぎ形の面積、平行移動、多角形の内角・外角の和などの問題の正答率が70%を上回っており、知識・技能の定着が図られている。 ●平行線の同位角、錯角の関係と二等辺三角形の性質を利用した角の大きさを求める問題では、市の平均正答率を上回っているものの、正答率が67.5%であった。	・作図やおうぎ形の面積を求める問題については定着が図れている。図形の性質を利用する問題については、公式の単なる暗記ではなく、その意味を十分理解させた上で多様な問題に活用できるよう指導する。 ・図形の性質を根拠を用いて筋道立てて証明したり見通しをもって作図したりする活動を通して、数学的な見方・考え方を伸ばすよう指導していく。
関数	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を3.3ポイント上回っている。 ○比例や1次関数の式を求めることや変化の割合、座標軸上の三角形の面積を求める問題では、正答率が70%を上回っており、表・式・グラフの関連付けができています。 ●グラフを読み取る記述式の問題では、市の平均正答率を1.8ポイント下回っており、苦手意識がうかがえる。	・関数の領域では記述式の問題以外で市の平均正答率を上回っており、表・式・グラフの相互の関係について概ね理解ができています。 ・xの2乗に比例する関数や記述式の問題について苦手意識が強いので、基礎的な内容だけでなく関数の有用性を感じられるような身の回りの事象に関わる問題などの発展的な内容も授業で積極的に扱い、演習を重ねていくことで更に理解を深めさせる。
データの活用	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を0.9ポイント上回っている。 ○さいころを投げたときの確率を問う問題では、正答率が80%を超え、定着が図れている。 ●ヒストグラムを読み取り、その特徴をもとに説明する問題では、市の平均正答率より4ポイント下回っており、読み取りに苦手意識がうかがえる。	・箱ひげ図や四分位範囲、確率については問題演習を繰り返してきたので、十分な理解が図れている。今後も継続して指導していく。 ・自分では理解していても説明の際に言葉が足らず、正しく表現できない生徒もいる。日々の授業の中で、自身の答えを述べる際に正しい数学用語を使わせたり、根拠を明らかにして説明することを意識させたりするなど、継続して指導していく。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	66.4	59.3	62.1
	粒子	74.5	69.5	66.8
	生命	78.6	75.2	70.9
	地球	59.9	54.4	52.0
観点別	知識・技能	72.1	67.7	67.2
	思考・判断・表現	69.7	63.7	60.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

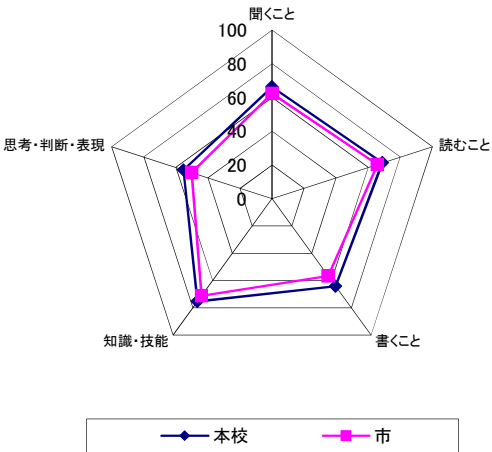
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を7.1ポイント上回っている。 ○いずれの問題も市の平均正答率を上回っており、おおむね理解が進んでいる。 ●磁界についての問題の正答率が5割を下回っており、理解がやや不十分である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・作図や計算問題が多いエネルギー分野では、1年生の頃から練習問題を重点的に行なってきたこともあり、平均正答率が市平均を大きく上回ったので、次年度以降も全学年で力を入れて指導していく。 ・光の道すじや磁界の向き、磁力線など視覚的に捉えにくい内容を工夫して指導し、知識の定着を図っていく。
粒子	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を5.0ポイント上回っている。 ○いずれの問題でも市の平均正答率を上回っており、おおむね理解が進んでいる。	・実験内容にまつわる内容の正答率が市平均を大きく上回った。今後も実験を大切にし、指導していく。 ・実験については、その意図を丁寧に確認し、結果の分析、考察を重点的に行うことで、知識の確実な定着を図っていく。
生命	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を3.4ポイント上回っている。 ●生物のスケッチと受精に関する問題で市の平均回答率を約4ポイント下回った。	・初歩的な問題でも正しく知識が定着していくよう、授業や問題演習等で反復学習を心がけ、指導していく。
地球	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を5.5ポイント上回っている。 ●大気圧に関する問題で、平均正答率が3割未満、全国平均正答率を約10ポイント下回っていた。	・実物を見ることが困難で、全分野のなかで一番指導が難しい分野だが、できるだけ身近な事象と結びつけて印象に残るような指導をしていく。 ・身につけた知識を応用して考えることができるように指導していく。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	66.3	62.4	59.8
	読むこと	68.9	65.7	58.5
	書くこと	64.2	56.8	43.5
観点別	知識・技能	75.4	71.2	65.3
	思考・判断・表現	55.2	50.1	40.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を3.9ポイント上回っており、特に対話文において5ポイント以上上回っている解答がリスニング全10問中4問となっている。 ●内容理解をして英文の内容に合う絵を選ぶ問題のうち2問は市の平均正答率をそれぞれ3.5、0.5ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・教科書の英文の聞き取りだけではなく、様々な英文をALTとの授業や対話活動などを通して、まずは大まかに理解したあとで正確に聞き取り理解できるような指導を行う。 ・多くの生徒が聞き取りの力があり、また自信を持っていることから、書くことや他の技能と関連づけ、英語でやり取りすることに意味をもたせる活動を多く取り入れながら各技能をスパイラルさせ、バランス良く向上を図る。
読むこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を3.2ポイント上回っている。 ●英文の読み取りについての問題では、2問とも市の平均を大きく上回っているが、長文の読み取りについては代名詞がさす内容を答えたり、メールの内容を理解し答える問題については、市の平均正答率と同程度にとどまっている。	・新しい語彙や文法を理解し使えるようになるだけではなく、長文の中で英語のイメージ・概念を捉えさせ、より内容を深く理解できるような指導を継続する。 ・様々な長文の読み取りに慣れながら内容をおおまかに捉え情報を整理しながら読むことを、授業の中で意識させ取り入れるようにする。
書くこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を7.4ポイント上回っている。また、3文以上の英作文を書く問題では、3問とも市の平均を大きく上回っている。 ●対話の流れにそった英文を相手に伝えるように書く問題や相手の返答を読んでそれに対する疑問文を作る問題では、書くことのほかの問題に比べて正答率がやや低くなっている。	・授業において、話すこと、聞くこと、読むことと書くことを関連させる活動を多く取り入れる。 ・単語テスト・単元テストを継続し、書くことへの自信とつながるような基礎的な力が確実に身に付けられるようにする。 ・タブレット使用により正確に書くことへこだわりが強い傾向があるため、間違いを恐れずに自分の意見をのびのびと自由に書ける力がつくような指導を行う。

宇都宮市立星が丘中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・多面的に考え、自らの考えを 進んで表出する生徒の育成	・各教室にホワイトボードを据え置き利用する ことやClassroomの利用、学びポケットの活 用などを推進する。	「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」に 対する肯定的な回答の割合は、1年生が77.6%、2年生が 73.1%で市全体ならびに昨年度を上回った。3年生は 77.7%で市全体ならびに昨年度を下回った。
・本時のねらいを共有し、意欲 をもって学ぶ生徒の育成	・授業において『本時の目標』の提示や、ねら いに即した展開をする。この授業で育てたい 力を意識して指導することにより、生徒に授業 の目標や見通しを意識させる。	「学習して、いろいろなことが分かったり、できるよう なったりすることはうれしい」に対する肯定的な回答の割 合は1年生が95.5%と市全体ならびに昨年度を上回り、と 学ぶ楽しさを感じ、意欲をもって学ぶ姿勢が見られる。2 年生は88.6%、3年生は90.6%と市全体ならびに昨年度を 下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

学力調査においては、正答率がほとんどの教科・領域で市平均を上回り、良好な状況である。しかし、家庭学習にかける時間は十分であるとは言えず、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」に対する肯定的回答は1年生は市全体を上回っているが、2・3年生は大きく下回っていることが課題である。習ったことをその日のうちに反復して学習することを日々の授業の中で指導を積み重ねていく必要がある。「授業の始まりには席についている」生徒がほとんどで、授業に臨む姿勢は概ね良好であるが、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」については、学年が上がるにつれ市全体より低くなる結果が得られた。「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」に対する肯定的回答も1年生87.6%、2年生83.1%、3年生88.1%とすべての学年で市全体を下回った。総合的な学習の時間の活動のまとめや発表などで活用の他、各教科の学びポケットの活用生徒会や生徒会専門委員会のアンケート集計など、などタブレットの使用も定着しているので、さらに自分の考えを表出するのに自信を持てるよう支援をする必要がある。今後は、授業の中での意見交換や、まとめのスライド作りなど協働学習の道具としての活用を進めることで、『主体的・対話的な学び』の場面の指導方法を工夫し、自分の考えを広げ深めさせる授業を実践をしていく。